

|        |  |
|--------|--|
| 目指す学校像 | 凡事徹底の上に“情熱とスキル”をもった教職員が創造的に教育活動を進めこどもたちに確かな生きる力を育む学校 |
|--------|--|

|      |   |
|------|---|
| 重点目標 | 1 子どもたちが生涯にわたって学ぶ基盤となる主体的な学習態度と基盤となる学力の育成<br>2 どの子どもも安全安心のうちに学校生活を送り、自分のよさを伸ばし活躍できる教育環境の整備<br>3 150周年を超えた伝統と歴史の重みを生かし、地域に根差し、貢献できる学校づくり<br>4 教職員それぞれが児童、保護者、地域からの信頼を築き、喜びをもって力を発揮する教育活動 |
|------|---|

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

|     |   |              |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上)  |
|     | B | 概ね達成 (6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し (4割以上) |
|     | D | 不十分 (4割未満)   |

| 学 校 自 己 評 価 |  |   |   |  |           |     | 学校運営協議会による評価 |                     |  |
|-------------|--|---|---|--|-----------|-----|--------------|---------------------|--|
| 年 度 目 標     |  |   |   |  | 年 度 評 価   |     | 実施日 令和 年 月 日 |                     |  |
| 番号          | 現状と課題  | 評価項目  | 具体的方策   | 方策の評価指標  | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策  | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |  |
| 1           | <現状><br>○学習に意欲的に取り組む児童が多いが、学習習慣や基礎・基本の定着は完全ではない。粘り強く思考し、探究する学習は苦手な傾向にある。全国学力学習状況調査でみると、記述式の問題の無答率が高い。<br>○多岐にわたった分野で興味関心が高く、調べたり発表したりする学習に熱心に取り組む、将来のゆめを描くことにつなげられる児童が多い。<br><課題><br>○主体的に思考し、探究する学習の機会を意図的に多く設け、粘り強く取り組んだ結果の成功体験を味わわせる。<br>○STEAMS 教育を推進させ、児童の興味関心の強さを生かした学習スタイルを取り入れていく。<br>○読解力と記述のスキルを習得する。                                      | ○国語力（特に読解力）の向上<br>○全国及び市の学力・学習状況調査の結果分析   | ○国語をはじめとした教科の指導はもとより、児童の言語環境を整え、それぞれの児童の語彙を増やすことを意識して、「読む・書く」指導に力を入れていく。<br>○学びのポイント（じ・し・ゃ・く）を意識して ICT を活用していく。<br>○全国及び市の学力・学習状況調査の振り返りの授業を校長が行い、全教職員が参観する。<br>○学力調査等の問題及び結果について校内で研修会を開き、指導方法の工夫改善について検討する。<br>○SSSP を推進し、個別最適な学びについて常に検証する。学年全体で学年の全児童の学力について分析する。 | ○国語科において「読解力」を意識した指導方法についての授業研究や研修会を経て、全教職員が日々の授業実践のスキルを上げているか。<br>○教職員の意識の向上及び語彙力、表現力の向上が図れたか。<br>○全国及び市の学力・学習状況調査の問題及び結果についての校内研修会を開催し、全職員が児童の学力や学習の状況を知り、今後の指導方法の工夫改善に向けて考えることができたか。  |           |     |              |                     |  |
| 2           | <現状><br>○4年間の大規模改修を経て、校舎は故障箇所が少なく、美しく機能的に保たれている。<br>○児童の大半は、学校に楽しく通っており、完全に不登校の児童は0である。<br>○発達に特性のみられる児童が少なくないが学年が進むにつれ、課題解決が進んでいる。<br>○いじめなどのトラブルは早期に解決し、その後の見守りや見届けも確実にしている。<br><課題><br>○教職員による点検の徹底と児童の安全への意識や環境美化に取り組む主体的な態度を育てる。<br>○児童それぞれの特性や状況を把握し、悩みを相談できる環境を整え、いじめやトラブルを見逃すことなく、適切な助言や支援を行っていく。<br>○一人ひとりのよさを認め、伸ばすと共に、学校のルールやマナーを身に付けさせる。 | ○施設、設備の点検結果<br>○不登校傾向児童の登校日数<br>○保護者による学校評価<br>○いじめ案件への迅速、確実な対応<br>○見守り、見届けの徹底<br>○未解決0の常態化 | ○報告、連絡、相談、確認、見届けを励行し、迅速な対応を心掛ける。<br>○教職員全員で情報を共有し、児童理解のために様々な情報を出し合い、共通理解を図る。<br>○校長のリーダーシップのもと、方針を定め、共通行動を徹底させる。<br>○生徒に関わる案件について「ヒアリングシート」を作成し、厳重に保存しながら活用していく。<br>○教育相談を充実させるために、保護者が学校に相談しやすい雰囲気を作るとともに、保護者の声を丁寧に受け止め、誠実な対応をしていく。                                 | ○職員、児童ともに、施設の整備や環境美化への高い意識をもち、安全で快適な環境を保持することができたか。<br>○学年、学校が様々な情報を整理して共有し、校長の示す方針のもと、共通理解、共通行動を図ることができているか。<br>○いじめの芽となる案件を軽んじることなく丁寧に指導し、事後の経過観察も徹底できているか。<br>○ヒアリングシートを正確に作成し、情報の共有及び指導の参考に活用できているか。<br>○管理職は、時期を捉えて保護者への説明責任を果たしたり、面談を行ったりできているか。 |           |     |              |                     |  |
| 3           | <現状><br>○児童は、昨年度開校 150 周年の記念事業を通して、自校の伝統と歴史の重みを実感し、支えてくれる地域への感謝や敬意をもつに至った。<br>○地域は、代々本校の卒業生である方々が多く、母校を誇りに思い、協力や支援を惜しまない。<br>○さいたま市 10 区の中の中央区が一番小さい区だが、市のコミュニティ課と芸術劇場が連携協力して“芸術のまち”として特色がある。<br><課題><br>○地域の中にある学校として、地域の中に出て、地域を盛り上げることができる教育活動を展開する。<br>○公共施設一体型の特色を生かした活動の機会を増やし、児童が広く社会に目を向け、未来への明るい展望を描けるようにする。                                | ○学校の情報提供<br>○教育活動公開の機会設定<br>○地域との交流の機会設定<br>○地域の行事に参加                                       | ○毎月末に発行する「学校だより」は、地域に学校の状況や情報を十分知らせることができるように工夫する。<br>○運動会や音楽会をはじめ、地域に公開し、参画してもらえらる行事を企画していく。<br>○児童が交通ルールやマナーを守る態度を向上させ、合わせて感謝を込めたよいあいさつができるように日頃から意識付けを行う。<br>○芸術劇場で新しく企画している「さいたま盆踊り」に学校をあげて参加し、地域を盛り上げる意識を向上させる。<br>○与野西中学校と連携した、美化活動やあいさつ運動を行う。                  | ○「学校だより」の巻頭言は、学校の方針を明らかにしながら、教育活動の様子を伝える役割を果たしているか。<br>○運動会や音楽会の本校のスタンダードな形を確立すると共に、児童、保護者、地域に満足してもらえらる内容にできたか。<br>○児童の挨拶を励行する意識と実践状況は向上しているか。<br>○地域の行事に積極的に参画し、交流することで、視野を広げたり、自己の生き方について考えたりできる児童に育っているか。   |           |     |              |                     |  |
| 4           | <現状><br>○教職員の年齢構成で、50代が少ない。<br>○ICT の活用や教科担任制については、良く散り組み、スキルの習得など全体的に進めている。<br>○在校時間超過を削減する認識が足りない。<br><課題><br>○経験を積んだベテラン教員ならではの細やかな視点や手間をかけた指導を若手に伝えていく。<br>○ICT や教科担任制をどの教員にも浸透させるための研修等を引き続き充実させる。<br>○在校時間超過解消への意識を高め風土を作る。  | ○人事調査のアンケートにおける業務の負担及び職場環境についての回答<br>○気軽でためになる相互研修の風土づくり                                    | ○教職員一人ひとりがやりがいと情熱をもって日々の職務にあたるように、対話を大切にし、評価や励ましの言葉をかけていく。<br>○会議の時間を減らし、教材研究や相互研修などの時間を作る。<br>○教職員の状況を把握し、事情や悩みを抱える場合は適切に支援していく。<br>○「ノー残業、ノー会議、完全退勤」を月に1回実施する。  | ○教職員相互の関係が良好で、互いに切磋琢磨しながら、やりがいとエネルギーをもって職務にあたる風土となっているか。<br>○会議のもち方を工夫し、働き方改革を進め、職員が負担軽減を感じることに繋がったか。<br>○管理職から職員への配慮や支援は適切に行えたか。<br>○定時退勤実行への感覚や意識が広まったか。   |           |     |              |                     |  |

